

日本海側の海域活断層の長期評価 —兵庫県北方沖～新潟県上越地方沖— (令和6年8月版)のポイント(案)

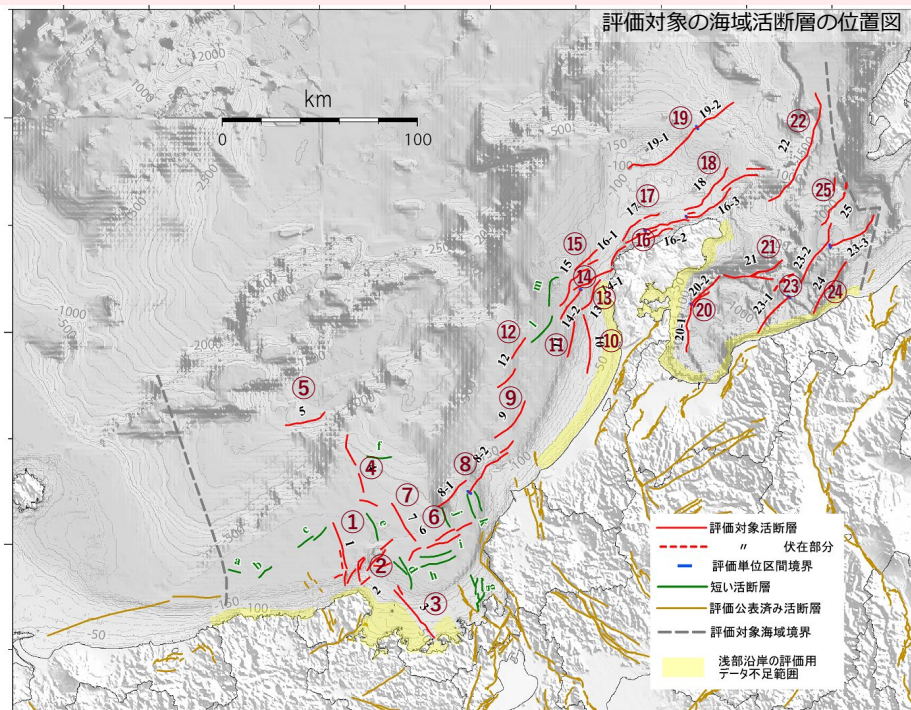
調403参考資料2-2
地震調査研究推進本部
事務局

- 2024年1月1日の能登半島地震の発生を受け、速やかに防災対策に活用できるよう、**兵庫県北方沖～新潟県上越地方沖の海域活断層の、位置・長さ・形状・そこで発生する地震の規模等**について、前倒して公表する。今回は、**地震発生確率の評価**は行っていない
- 主に**長さ20km以上の計25の海域活断層(帯)**の特性を評価
- 今後、今回の領域の**地震発生確率の評価**と、**新潟県沖～東北地域～北海道地域の日本海側の海域活断層の評価**を行い、公表可能な結果から、**順次公表を行う予定**

計25の断層(帯)について、断層の位置等の評価

<評価対象の海域活断層(M(マグニチュード)は断層(帯)全体が同時に活動した場合の地震の規模)>

- ① 沖ノ礁北方断層 (25km程度, M7.2程度)
- ② 経ヶ岬沖断層 (36km程度, M7.4程度)
- ③ 小浜沖断層 (33km程度, M7.4程度)
- ④ 浦島礁北方北断層 (40km程度, M7.5程度)
- ⑤ 若狭海丘列北縁断層 (21km程度, M7.0程度)
- ⑥ 越前岬西方沖北断層 (38km程度, M7.5程度)
- ⑦ 浦島礁北東断層 (23km程度, M7.1程度)
- ⑧ ゲンタツ瀬・大グリ南東縁断層帯 (52km程度, M7.7程度)
- ⑨ 加佐ノ岬沖断層 (25km程度, M7.2程度)
- ⑩ 羽咋沖東断層 (30km程度, M7.3程度)
- ⑪ 羽咋沖西断層 (21km程度, M7.0程度)
- ⑫ 内灘沖断層 (29km程度, M7.3程度)
- ⑬ 海士岬沖東断層 (21km程度, M7.0程度)
- ⑭ 門前断層帯 (38km程度, M7.5程度)



- ⑮ 沖ノ瀬東方断層 (35km程度, M7.4程度)
- ⑯ 能登半島北岸断層帯 (94km程度, M7.8-8.1程度)
- ⑰ 輪島はるか沖断層 (24km程度, M7.1程度)
- ⑱ 能登半島北方沖断層 (31km程度, M7.3程度)
- ⑲ 舳倉島近海断層帯 (64km程度, M7.8程度)
- ⑳ 七尾湾東方断層帯 (43km程度, M7.6程度)
- ㉑ 飯田海脚南縁断層 (31km程度, M7.3程度)
- ㉒ 富山トラフ西縁断層 (61km程度, M7.8程度)
- ㉓ 上越沖断層帯 (86km程度, M7.8-8.1程度)
- ㉔ 名立沖断層 (31km程度, M7.3程度)
- ㉕ 上越海丘東縁断層 (25km程度, M7.2程度)

2024年1月1日の能登半島地震に伴う隆起を、⑭門前断層帯の門前沖区間東部～⑯能登半島北岸断層帯にかけて確認している。また、地震調査委員会は、この地震の震源断層は、北東-南西に延びる150km程度(⑭門前断層帯～⑯能登半島北岸断層帯～⑲富山トラフ西縁断層にまたがる範囲)の主として南東傾斜の逆断層であると評価している。このような隣接している断層帯又は断層は、連動して活動する可能性を否定できない。

海域活断層の評価手法

- ① M7.0以上の地震を引き起こす活断層を評価
- ② 反射法地震探査による反射断面、海底地形・地質、既存研究の断層モデル等から、断層の位置、長さ、形状等を推定
- ③ 地震の規模(M(マグニチュード))は、断層長さとの関係式を用いて推定
- ④ 平均活動間隔を推定し、地震発生確率を評価(未実施)

参考：日本海南西部の海域活断層の長期評価(令和4年3月)の概要

- 長さ20km以上の計37の海域活断層(帯)を評価
- 活断層の分布や地質構造、陸域の地域評価の区域分けを考慮して、西部(9断層)、中部(17断層)、東部(11断層)に評価対象海域を区分
- 最大の断層帯は、西部(73km程度, M7.9程度)、中部(49km程度, M7.7程度)、東部(94km程度, M7.7-8.1程度)
- 今後30年以内のM7.0以上の地震発生確率は、西部(1-3%)、中部(3-6%)、東部(3-7%)であり、全体で8-13%